

神奈川県立武山支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和7年度 第3回 学校運営協議会（3校合同開催）
開催日時	令和7年11月18日（火）9時30分～11時00分
開催場所	神奈川県立岩戸支援学校 会議室
出席者	神奈川県立岩戸支援学校 学校運営協議会委員 10名 神奈川県立武山支援学校 学校運営協議会委員 8名 横須賀市立養護学校 学校運営委員会委員 6名
会議資料	・令和7年度 よこすか支援学校 学校運営協議会（3校合同学校運営協議会）について ・令和7年度 よこすか支援学校（岩戸支援、横須賀市立養護、武山支援3校合同）運営協議会取組報告 ・令和7年度 よこすか支援学校 名簿
議事録	<p>1 趣旨説明及び会長挨拶</p> <p>① 趣旨並びに要旨の説明（武山支援学校 大津副校長） 複数校に関わる課題や連携協働が必要な課題への取組や好事例等の情報共有を行い、協議会が目指す横須賀・三浦地区の「共生社会の担い手を育む」基盤づくりや条件整備が進み、特別支援学校のミッションである「自立と社会参加」及び「共生社会の実現」に向けた取組の下支えをする効果を期待している。</p> <p>② 会長挨拶（佐藤 雅己 武山支援学校 学校運営協議会会長） 本協議会も4年目となり、横須賀地区が一つとなって連携共同して成果を出してきた一方で課題も出てきている。会の意味や委員の専門性を生かした改善策を考えていきたい。</p> <p>2 昨年度の協議内容の成果報告</p> <p>① 医療的ケアの通学支援等について <横須賀市立>タクシーやワゴン車を各3回/週の枠で利用 <岩戸支援>スクールバス2台を稼働させて通学支援を実施 <武山支援>1名が3日/週実施、もう1名が3学期からの実施を目指している</p> <p>② 横須賀・三浦地区の支援教育について <横須賀市立>トライアングルプロジェクトやセンター的機能として派遣を実施 <岩戸支援>実践例をテーマに公開講座を行い地域や保護者と共通認識を持った <武山支援>センター的機能の一環で校長が支援教育について講義し、地域の学校の障害児教育の理解を深めた</p> <p>③ 支援学校高等部卒業後の就労支援について <横須賀市立>進路のイメージを持たせるため、保護者の施設見学会や県立特別支援学校との交流会を行った <岩戸支援>「企業と語ろうIN岩戸」を開催し、保護者の不安や負担感を減らす機会を設けた <武山支援>分教室の近隣農家との連携について学校運営協議会で成果と課題について協議し助言をいただいた</p> <p>3 各機関からの報告・話題提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県医療的ケア児等支援庁内連絡会議の資料提供 ・サポートブックの紹介 <p>4 分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つのグループ（① 横須賀・三浦地区の支援教育について、② 防災時の地域連携について）に分かれて協議を行い、全体共有を行った。 ① 横須賀・三浦地区の支援教育について <ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスや移動支援の形態の違いや現状についての共有 ・インクルーシブについての捉え方の共有 ② 防災時の地域連携について <ul style="list-style-type: none"> ・地域や自治体との連携と協力体制の構築について ・横須賀市と県の動きの連携やすみ分けについて ・避難所設置訓練等、時代にあった訓練について <p>5 講評 <横倉委員></p> <p>中教審のワーキングで次期学習指導要領の検討を行っている。社会モデルでみる視点が取り入れられており、医療的ケアの通学支援については、教育の保障と同様に保護者支援を行政がケアするという政策に転換している。保護者支援となるような要望をまとめておくと良いのではないか。次の時代を切り開く意識が大切であると考える。</p> <p>トライアングルプロジェクトについては、子供を中心に個別支援計画を学校や福祉機関の間で共有し個別最適な支援をする、という考え方で進めていく事が大切である。</p>